

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）実現のために
[休暇の取得促進]

現場異動時休暇の取得促進で 安全でよりよい仕事の遂行を実現

CASE 2

鹿島建設株式会社



鹿島建設株式会社
人事部 次長

土山 淳子氏

—「現場異動時休暇」の取得促進に力を入れているそうですが、具体的にどのような制度なのですか。

土山 ● 建設現場は当社の屋台骨である重要な部門でありながら、自然環境や工期に左右され、休みが取りにくいのが現状です。せめて1つの現場での担当を終え、次の現場に異動する際に、まとまった休暇を取得してもらおうと設定した制度です。

—どのように推進していますか。

土山 ● 社員に異動辞令を交付する

際、直属の上長が休暇を取得するよう促したり、休暇を取得しやすいよう異動日を配慮したりしています。

また、「休暇を取得し、リフレッシュすることで明日の仕事の活力がわく」と社長自らがワーク・ライフ・バランス（WLB）の重要性を訴え、休暇取得促進の旗振り役になっています。その効果もあり、部署長が部下の休暇取得を意識するようになり、推進前は19%だった取得率が45%にアップしました。

—リフレッシュ休暇の拡充も行ったそうですね。

土山 ● 現場異動時休暇は建設現場の従事者向けの制度ですが、リフレッシュ休暇は全社員が対象となります。取得条件となる勤務年数や取得できる日数の拡大、取得期限の延長などを、今年の春から実施しています。

—会社にとってWLBは、どのようなメリットがあると思いますか。

土山 ● 建設は常に危険と隣り合わせです。そこで働く作業員の方を指揮する社員は、彼らの命を預かってい



鹿島建設株式会社
代表取締役社長

中村 満義氏

鹿島建設が目指すWLBとは

仕事も生活も全力投球
 ~OnとOffを切り替えて
「健康で豊かな生活」の実現を~

ると言えます。心身ともに健康でなければ適切な指示は出せません。また、WLBの推進は、いわゆる“建設業界=3K”というイメージの払拭につながり、優秀な人材の確保も期待できると思います。

—今後の方針はいかがでしょう。

土山 ● 今年2月にWLBに関する意識調査を社内で行ったところ、WLBという言葉の認知度は94%に達していました。今後は、具体的にどう定着させていくかが課題です。 

WLB支援に取り組む 10社の事例を連載中!

※()内は掲載(予定)号

[休暇の取得促進]

株式会社電通 (10/5号掲載)

鹿島建設株式会社 (今回掲載)

[メリハリのある働き方の実現]

株式会社日立製作所 (10/19号)

株式会社大和証券グループ本社 (10/26号)

全日本空輸株式会社 (11/2号)

キヤノン株式会社 (11/9号)

[仕事と育児・介護の両立支援]

三井化学株式会社 (11/16号)

日産自動車株式会社 (11/23号)

株式会社高島屋 (11/30号)

住友商事株式会社 (12/7号)

今回の
ポイント

**トップダウンとボトムアップの両面から
現場をはじめ社員の休暇取得を促進**